

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170502074), 法人名 (有限会社 エーアステス), 事業所名 (Myほ～む愛華夢), 所在地 (札幌市清田区里塚1条2丁目12番11号), 自己評価作成日 (平成25年10月31日), 評価結果市町村受理日 (平成26年1月6日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ほ～むの運営理念である「私たちのほ～むに関わる全ての人の明るい笑顔と活気ある生活です」を目標に入居者様だけでなく、ご家族様、地域住民の皆様、職員が協力し、よりよい支援ができるようチームケアに取り組んでおります。また、毎月、認知症やコミュニケーション、介護技術など、各入居者様に最適なケアを行えるよう、勉強会を開催しております。筋力低下を防ぐため、毎日ラジオ体操、リハビリ体操、散歩を行って頂いております。誤嚥の予防として毎食前に嚥下体操を行なって頂いております。家庭的な雰囲気の中でゆったりと安心した暮らしができるようサポートし、季節行事や、地域の皆様と交流できるようなイベントに参加して頂き楽しみをもち気分転換を図って頂いております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=tr ue&JigvosvoCd=0170502074-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号), 訪問調査日 (平成25年12月10日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市郊外の閑静な住宅街に立地している。近隣には公園や病院があり生活環境に恵まれている。建物は民家改造型で、リビングを中心に各室日当たりが良く、明るく家庭的な雰囲気である。定員6人で一人ひとりに細かな配慮が行き届く体制となっている。法人は関連福祉事業を経営しており、研修や人事等で協力関係が期待できる。職員は各種勉強会に参加して日々研鑽しサービスの質の向上に努めている。利用者はラジオ体操やリハビリ体操、散歩を行い、筋力低下を防ぎ、残存能力の維持向上をはかっている。花見など季節に合わせたドライブ旅行や外出で気分転換をはかり生活の活性化に努めている。運営推進会議は地域包括支援センター職員、町内会役員、消防署員、家族が参加して2カ月毎に開催している。事業所運営、行事、災害対策、サービス状況等について話し合い、討議内容は運営に反映させている。家族全員に参加案内議事録を送付している。医療については、提携医による月2回の往診と看護師の配置で日常健康管理を行い、緊急時にはいつでも連絡がとれる体制にある。看取りについては、家族の希望や状況に応じて医療連携をとりながら行えるよう体制を整えている。地域とは町内会行事に参加する中で人々と親しく交流し、地域に溶け込んで生活している。理念である「明るい笑顔と活気あふれる生活」を実現している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングや日常会話、新人教育の際理念について学び、全職員が周知し、ご家族様、地域住民の方々を含めたチームケアに生かされるように取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を踏まえた法人理念を作成し、事業所玄関等に掲示している。管理者と職員は理念を共有し、会議等の話し合いの中で確認し、サービスを提供している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員としてゴミ拾いや、日帰りバスツアーなどの行事にも積極的に参加して頂いている。散歩や畑作業の際に地域の方と挨拶や会話をされ、交流されている。	町内会行事のバスツアーや地域清掃ゴミ拾い等に参加している。散歩や畑作業の際に地域の人々に挨拶し会話をする等、日常的に交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事の際に入居者様の状況を説明しつつ認知症の人への理解や支援の方法についてお話しております。介護の方法、悩みなどについても話し合っております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、利用者様の生活状況などを報告させて頂き、助言や要望を伺い、サービスの向上にむけ参考にさせて頂いている。	運営推進会議は定例に開催し、地域包括支援センター職員、消防署員、地域代表、民生委員、家族が参加し、行事、運営、災害対策等について話し合い、サービス向上に努めている。議事録は行政や家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村が開催する管理者連絡会に出席し勉強会にも参加している。地域包括支援センターや消防署出張所とは、運営推進会議を通じ協力を得ている。	行政担当課職員とは業務連絡や相談業務等を通して情報交換し協力関係を築いている。市や区主催の会議や研修会には積極的に参加し連携をはかっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないよう全職員が理解し、ケアを行い、特に経験のない新人職員に対しては入職時その都度指導しております。	マニュアルを整備している。職員は内外の研修に参加し、拘束についての意識の共有をはかっている。職員の言動についても配慮し、身体拘束をしないケアを実践している。日中玄関は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修に参加し、虐待について全職員周知徹底しており虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会主催の高齢者の権利擁護を考える集いなどの研修に参加し、学ぶ機会を持っており、必要があれば活用し、支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に文書及び口頭で十分に説明させて頂き理解・納得頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設けている。運営推進会議で意見や要望について問いかけ発言しやすいように配慮している。	家族の意見は運営に反映させている。「ホーム便り」を毎月発行し、生活の様子を家族に伝えている。意見箱を設置し、又外部への苦情受付機関を案内している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1回ミーティングを行っており全職員の意見や提案を聞く機会をもうけている。また日々の中でも何かあれば話し合いをし反映できるよう心掛けている。	管理者は日頃の会話や毎月のミーティングで職員の意見を聞き、良好な関係づくりに努めている。職員の意見や提案は運営に反映できるようはかっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に事業所をまわり、職員の努力、勤務状況を把握している。給与面において昇給を行い意欲を持って働ける環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修・内部研修や外部研修の参加、報告と日々のケアのなかで必要に応じて指導を行い、職員のスキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の管理者会議に出席し情報交換や外部から講師を招き勉強会を行い、管理者、職員が共に参加しサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話や暮らしぶり、生活パターン等から入居者様の性格や個性を把握し、ご本人様らしい生活が出来る様に努め信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族やご本人様とコミュニケーションを充分に取り、ご意見やご要望を良く聞いて良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族の話を良くお聞きし、ご本人様が生活する上での問題点を考えケアプランをたて支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などできることは見守り、共に行い、感謝の気持ちをお伝えし共に暮らす者同士、支え合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状態を常に把握しご家族に報告して、共有した情報で協力し合い支援していけるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	運営推進会議や誕生会などの行事の際に来訪して頂けるようご案内させて頂き、いつでも自由に交流ができるよう支援に努めている。	利用者が大切にしている家族や友人の来訪を歓迎し、居室でゆっくり寛げるよう配慮している。近隣の古い友人との外出等には安全に配慮しながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で、入居者様同士が楽しく関わり合い楽しく過ごせるよう、お互い思いやりをもって暮らせるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も個人情報の保護に努め良好な関係が継続し、必要に応じて相談、支援ができるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から会話を大切に、その方の希望や意向に沿えるよう日々、努めている。毎月カンファレンスの際に検討しご本人本位のプラン作成に努めている。	会話や表情、動作等から個々の希望を把握している。家族からも情報を得て、職員間で情報を共有し、本人の意向に沿えるように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	定期的に再アセスメントを行いご本人の現状を把握し日々の暮らしがご本人の希望するものに近づけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の体調や気持ちの変化を把握、職員間で情報を共有しその方に合った場面作りが出来る様努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族の希望を基に、毎月行っているカンファレンスでは担当者を中心として意見やアイデアを出し合っケアプランの作成に当たっている。	介護計画は本人、家族の意向を尊重し、担当者を中心に全職員で検討し介護支援相談員が纏めている。定期的にモニタリングを行い、状況に合わせて随時見直しをして作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化、気づき等を個別ノート等に記入を行い職員間で情報を随時共有しております。また、ケアプランの見直しにも活用しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	来訪時や電話連絡などでご家族から要望があった際にはすぐに対応するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の方々とは散歩や畑作業時に話しかけて下さり馴染みの関係となり日常的に関わりを持っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様、ご家族の意向を大切に、2週に一度の訪問診療、急変はその都度主治医による対応を行っています。個々の受診も必要に応じ対応しております。	利用者希望のかかりつけ医には家族と共に支援している。提携内科医による月2回の往診があり看護師と共に健康管理を行い、医療機関とは24時間連絡可能な体制にある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週看護職員が巡回し健康管理を行っている。心身ともに異常が発生した時には直ぐに看護師に報告・相談し、指示により適切な対応が受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は医療機関と情報を共有し、ご本人が安心できるよう環境整備を行っている。ご家族と情報交換や相談を行い連携がとれている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については、ご本人、ご家族様より要望を伺い、文章で同意を交わしている。	終末期の対応については早期に家族や本人の意向を聞き、「文書」により確認している。状況が変化した場合は家族、医師、看護師、職員が情報・方針を共有し、適切に対応できるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応策のマニュアルを作成し、応急手当等は看護師または消防施設での訓練などで行っております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防職員と共に施設内で定期的に避難訓練を行っております。また、全職員が避難時の誘導対処の仕方を理解出来る様指導しております。	年2回消防署立会いの下避難訓練を実施している。地域住民の避難訓練参加の協力がある。電気器具の点検をするなど地域消防署と連携をとりながら防災に努めている。スプリンクラーが設置されている。	災害時に於ける避難場所は、町内会館や近隣小学校が約束されている。家族に報告しているが、より解りやすく認識できるように、避難場所のマップを事業所内に掲示することを検討しているので期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を理解し、誇りやプライバシーを損ねない様言葉掛け、対応している。	個々の人格を尊重し、職員は言葉かけや動作に配慮している。個人情報記載の書類の保管や取扱いに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現がなかなか出来ない方には時間をかけ、それぞれの思いや希望を表せるよう働きかけ、納得して暮らせるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、安心して、落ち着いた生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際に、ご本人と一緒に洋服選びを行っております。外出時に希望により化粧やマニキュアなどお洒落を楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の調理や準備をする事で食事を楽しみになるように支援している。また、後片付けや米とき、食器拭き等もして頂いている。	利用者の好みを献立に取り入れ、食事の準備などを手伝っている。職員と同じ食卓に着き、談笑しながらの食事は楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により栄養バランスが考えられたメニューとなっている。個別に食事量、水分摂取量を把握し、対応、記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア舌ブラッシングを行って頂いている。就寝時には義歯の消毒洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し声掛けや誘導を行っている。	排泄記録や表情、動作等から個々の排泄パターンを把握し、それとなく誘導し、トイレでの自立排泄に向けて支援している。殆どの利用者は布パンツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日課としてラジオ体操や様々な体操、散歩をして頂いている。食事、水分摂取量を記録している。排便の有無を確認し、便秘薬の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調やその日の気分に応じて無理強いはせずに、後日様子を見て入浴して頂いている。また、希望があれば毎日でも入浴できるよう支援している。	週3~4回の入浴を行っているが、個々の体調や希望に合わせて柔軟に対応している。浴室環境の安全、清潔に注意し、職員は言葉かけ等にも配慮し、入浴が楽しみとなるよう支援	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠にむけ日中の生活活動や運動を行って頂き適度な疲労感を得てスムーズな入眠ができるよう支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法、用量を把握し状態に応じて医師看護師の指示を受けて薬の増減をして服薬の支援をして症状の変化を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者様の出来る事で役割を持って頂き、活気のある生活になるように支援を行っている。また、季節に合わせたレクリエーションも行い楽しみや、気分転換になる様に支援をおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望にできるだけ添えるよう支援している。体調や天候を考慮し、散歩や外出の支援を行っている。	日常的には、畑の手入れや近くの公園への散歩で戸外に出かけている。法人の車を利用しての花見や、町内会行事の日帰り旅行への参加があり、地域の人々と共に外出を楽しめるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の希望により管理の出来る方は現金を持って頂いております。管理が必要な方には使用時に支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を出す事を望まれたり電話を掛けたい方には対応、必要に応じて支援させて頂いております。		
52		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや居室への日差しにたいしては、カーテンの開閉・暖房や照明の調整を行っています。四季を感じる様な装飾作り、飾り付けを皆様と共に一緒にを行い、楽しんで頂いております。	玄関は吹き抜けとなっており広く明るい。居間は対面式のキッチンと繋がり家庭的な雰囲気である。利用者の作品が飾られ季節感があり、採光、換気、温度、湿度も適切で居心地の良い居住空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分に限りがあるが、ソファや食席など思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や昔からのなじみの家具などを配置しています。ご本人手作りの物やお誕生日などに職員が手作りするカード等も飾り、穏やかに安心して過ごせる様に配慮しております。	居室は広く明るく、各室広い収納スペースがあり快適に環境整備されている。馴染みの家具を持ち込み、家族写真や趣味の物を飾り安心して暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全職員が一人ひとりの力を周知し、できることを継続し安全で安心感があり自立した生活が送れるように支援している。		